

第2章 本市の概況

1 位置・地勢

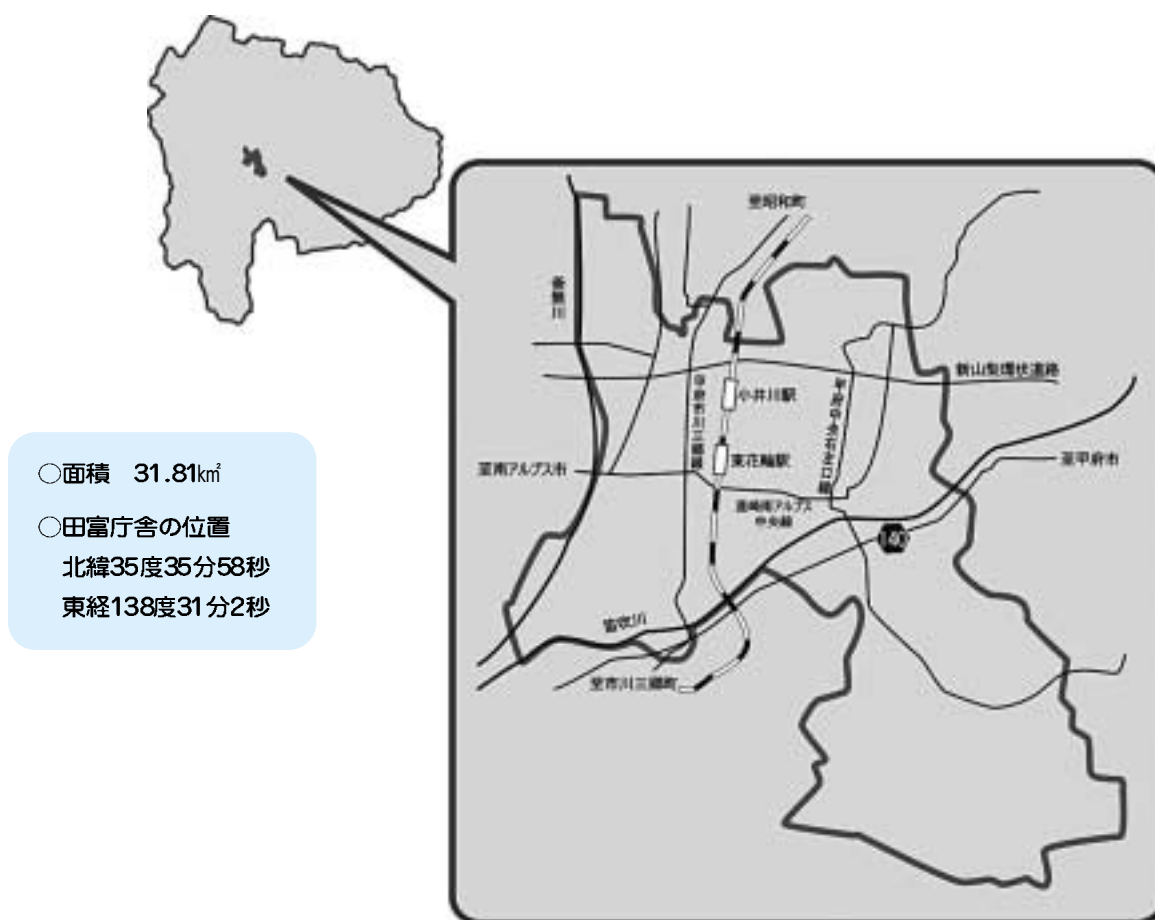
本市は甲府盆地の南西に位置し、東は甲府市に、北はJR身延線、昭和バイパスを境に昭和町に、西は釜無川を挟んで南アルプス市に、南は市川三郷町に接しています。東京都心からの距離は概ね120kmです。

釜無川により形成された沖積平野の地域と御坂山系からなる地域との二つの地理的特性を持っており、両地域は笛吹川によって隔てられています。平坦部は玉穂、田富の2地区が笛吹川と釜無川に挟まれた形で位置しており、豊富は山間部に広がる地域となっています。

交通面ではJR身延線が玉穂、田富地区の中間を南北に走っており、それに並行して主要地方道甲府市川三郷線が通っています。また、玉穂地区から豊富地区にかけて甲府中央右左口線が通っており、笛吹川に沿って走る国道140号線と交差しています。

本市の総面積は、31.81km²で、山梨県全体の0.71%を占めています。

● 図2-1 中央市の位置

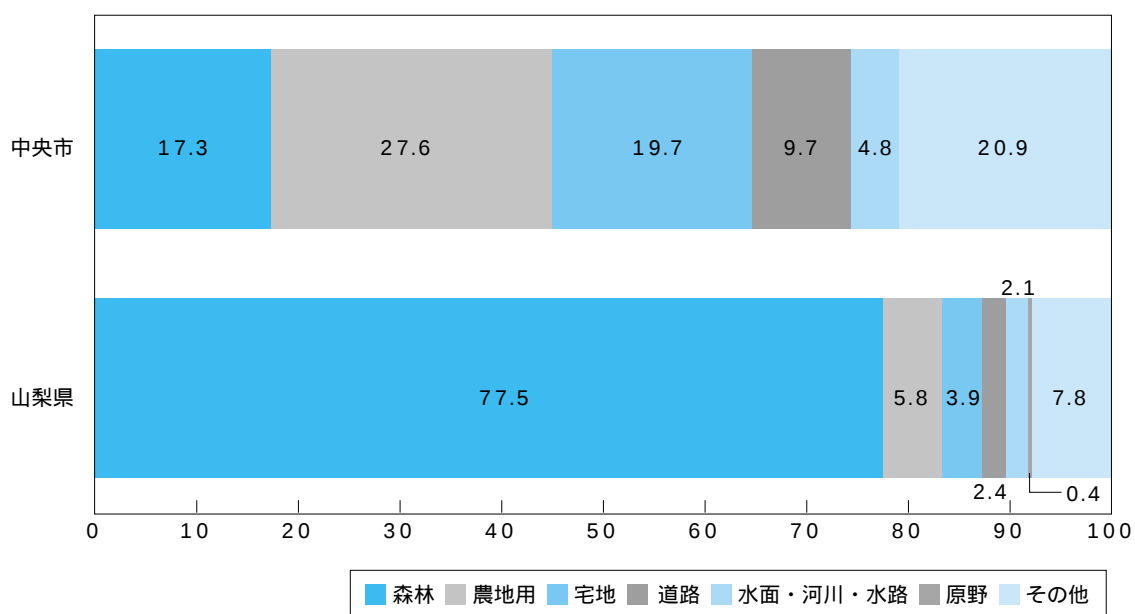


2 土地利用の現況

本市の土地利用状況を構成比でみると、「農用地(27.6%)」が最も多く、次いで「その他(公共公益施設等)(20.9%)」、「宅地(19.7%)」、「森林(17.3%)」となっています。

県全体との比較でみると、森林の割合は低く、農用地、宅地の割合が高くなっており、居住や産業に利活用されている平坦地が多いことが分かります(図2-2)。

● 図2-2 土地利用の現況



出典：平成17年土地利用現況調査

3

森林

本市の地形はほとんどが平地で、森林の地域は市の南部に位置し、その占める割合は約17%となっています。県全体の森林割合が約78%であることを考えると、本市の森林割合が少ないことが分かります。県内では昭和町に次いで2番目に森林面積及び割合が少ない市町村です。

●表2-1 森林の面積(森林割合の多い順)

No.	市町村	総面積(ha)	森林面積(ha)	割合(%)
1	丹波山村	10,155	9,872	97.2
2	早川町	36,986	35,447	95.8
3	小菅村	5,265	4,934	93.7
4	道志村	7,957	7,447	93.6
5	南部町	20,063	17,653	88.0
6	大月市	28,030	24,321	86.8
7	鳴沢村	8,956	7,762	86.7
8	鯉沢町	4,681	3,972	84.9
9	都留市	16,158	13,616	84.3
10	上野原市	17,065	13,995	82.0
11	山梨市	28,987	23,683	81.7
12	身延町	30,200	24,350	80.6
13	甲州市	26,401	21,141	80.1
14	増穂町	6,517	5,195	79.7
15	西桂町	1,518	1,207	79.5
16	北杜市	60,289	45,910	76.1
17	南アルプス市	26,406	19,331	73.2
18	富士河口湖町	15,851	11,482	72.4
19	富士吉田市	12,183	8,518	69.9
20	韮崎市	14,373	9,259	64.4
21	市川三郷町	7,507	4,830	64.3
22	甲府市	21,241	13,633	64.2
23	笛吹市	20,192	11,835	58.6
24	山中湖村	5,281	3,032	57.4
25	忍野村	2,515	1,353	53.8
26	甲斐市	7,192	3,152	43.8
27	中央市	3,181	552	17.4
28	昭和町	915	0	0.0

出典：平成18年度山梨県林業統計書

●表2-2 林種別森林面積

	総面積	森林面積合計	国有林	県有林	民有林
山梨県	446,537	347,482	4,648	153,291	189,543
中央市	3,181	552	0	186	366

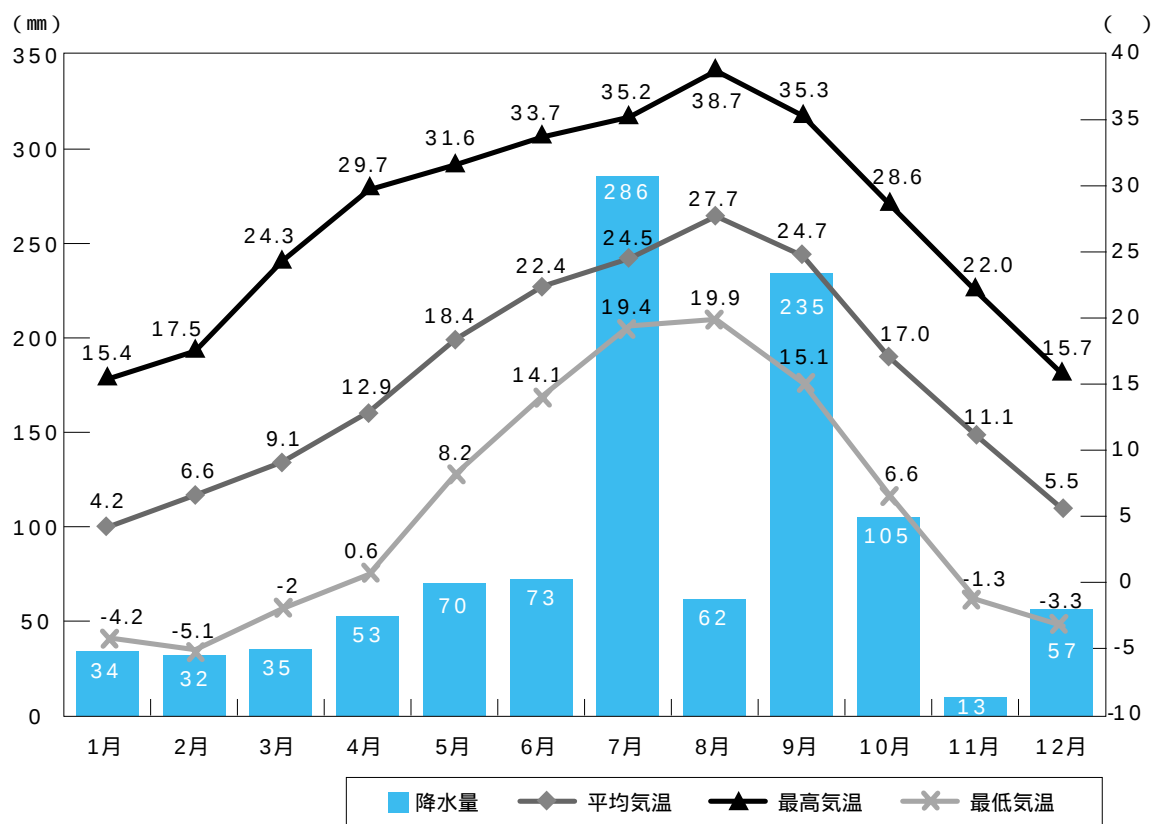
出典：平成18年度林業統計書

4 気象

(1) 気温と降水量

平成19年の甲府地方気象台(山梨県甲府市飯田4-7-29)の観測値によると、最高気温は8月の38.7、最低気温は2月の-5.1と1年を通じて寒暖の差が激しくなっています。また、降水量は7月が286mmと最も多く、次いで9月の234.5mm、10月の105mmとなっています。それ以外の月は冬場を中心に比較的降水量は少ない状況です。

● 図2-3 平成19年甲府地方気象台観測値(気温・降水量)



月		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量(mm)		34	32	35	53	70	73	286	62	235	105	13	57
気温 (°C)	平均	4.2	6.6	9.1	12.9	18.4	22.4	24.5	27.7	24.7	17.0	11.1	5.5
	最高	15.4	17.5	24.3	29.7	31.6	33.7	35.2	38.7	35.3	28.6	22.0	15.7
	最低	- 4.2	- 5.1	- 2.0	0.6	8.2	14.1	19.4	19.9	15.1	6.6	- 1.3	- 3.3

出典：甲府地方気象台

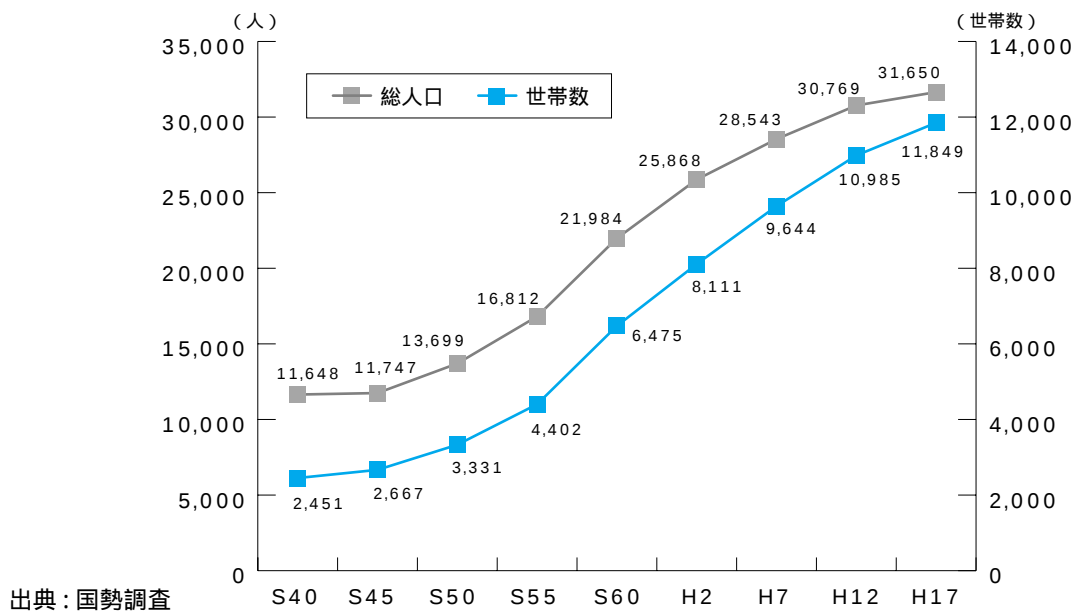
5 人口

(1)人口推移

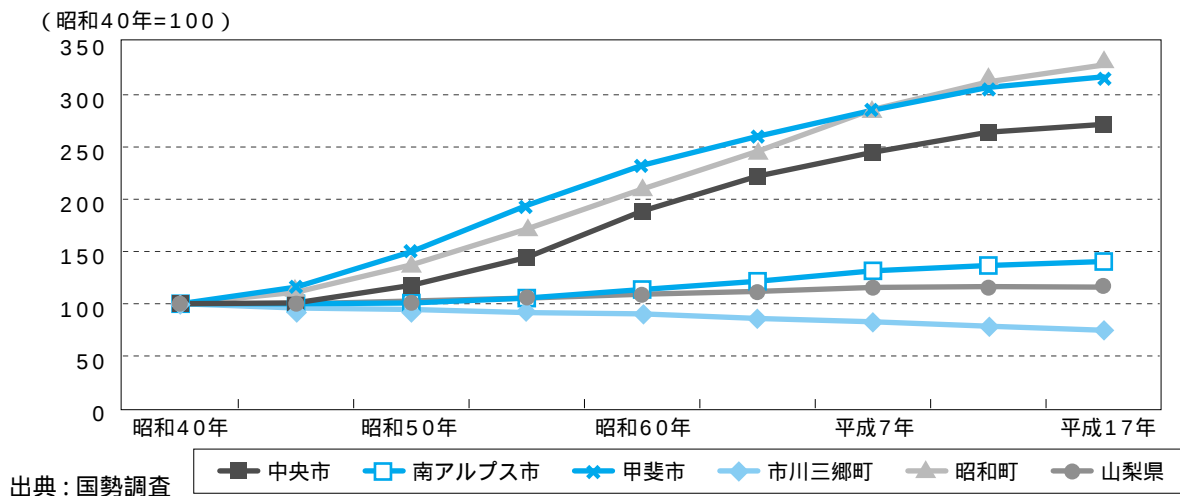
本市の人口は、現在のところ増加傾向にありますが、その伸び率は年々低くなってきており、頭打ちの状況が見えています。平成17年の国勢調査では31,650人と平成12年と比較して2.9%の増加となっています(図2-4)。

山梨県全体の人口の伸びが緩やかなのに対して、本市は甲斐市や昭和町と同様、昭和40年以降一貫して人口が増加を続けており、山梨県の中でも特に人口増加の著しい地域に含まれています(図2-5)。特に、宅地開発が進んだ田富地区及び玉穂地区の増加数が多くなっています(表2-3)。

● 図2-4 人口及び世帯数の推移



● 図2-5 人口増加の状況(近隣類似人口規模自治体及び山梨県比較)



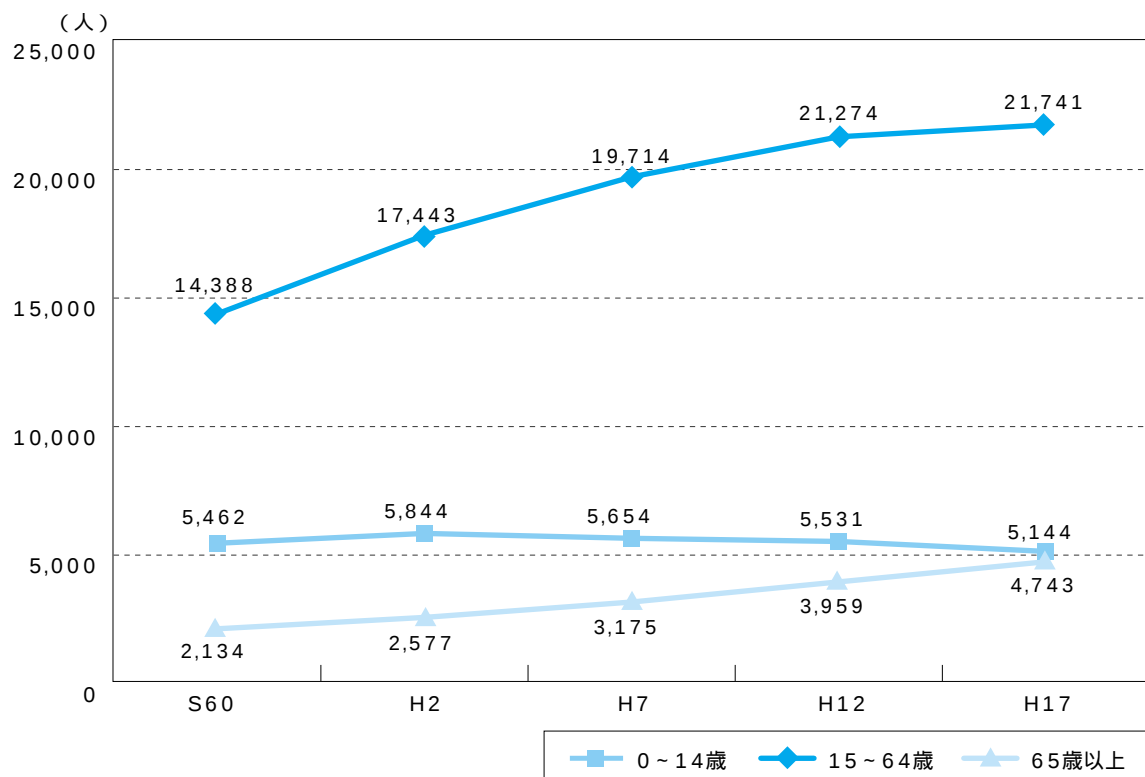
●表2-3 地区別人口推移

	昭和40年	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
中 央 市	11,648	11,747	13,699	16,812	21,984	25,868	28,543	30,769	31,650
旧玉穂町	2,858	2,779	3,380	4,156	6,784	8,325	9,460	10,443	10,787
旧田富町	4,938	5,321	6,814	9,228	11,854	14,150	15,674	16,694	17,267
旧豊富村	3,852	3,647	3,505	3,428	3,346	3,393	3,409	3,632	3,596

出典：国勢調査

年齢3区分別人口をみると、最も多いのは15～64歳の「生産年齢人口」ですが、その伸びは鈍化傾向にあります。一方、65歳以上の「高齢人口」は平成17年時点では最も少ない人数ですが、一貫して増加を続けており、減少傾向にある0～14歳の「年少人口」と同水準に達しています(図2-6)。

●図2-6 年齢3区分別人口推移



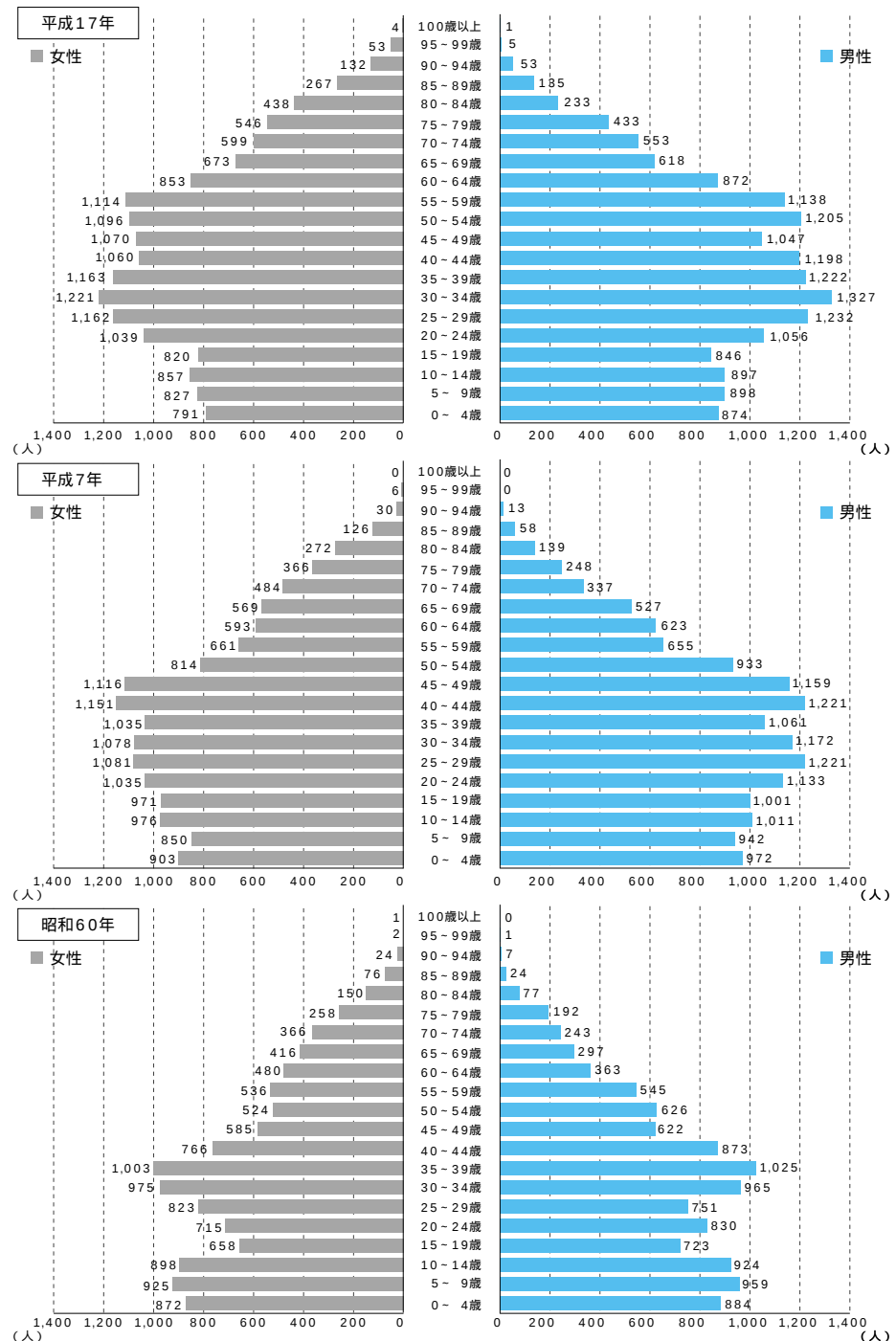
出典：国勢調査(年齢不詳を含まず)

(2)人口構成の推移

本市の人口構成を10年おきにみると、男女とも最も人口が多い年齢層は、昭和60年が「35～39歳」、平成7年には「40～44歳」、そして平成17年は「30～34歳」と推移しており、本市では壮年期(25歳～44歳)人口が最も多い状況が続いています。これはこの年齢層の流入が多いことを示しています。

一方、昭和60年には年少人口も突出していましたが、出生人口の減少とともに縮小傾向がみとれます。(図2-7)

● 図2-7 人口ピラミッド



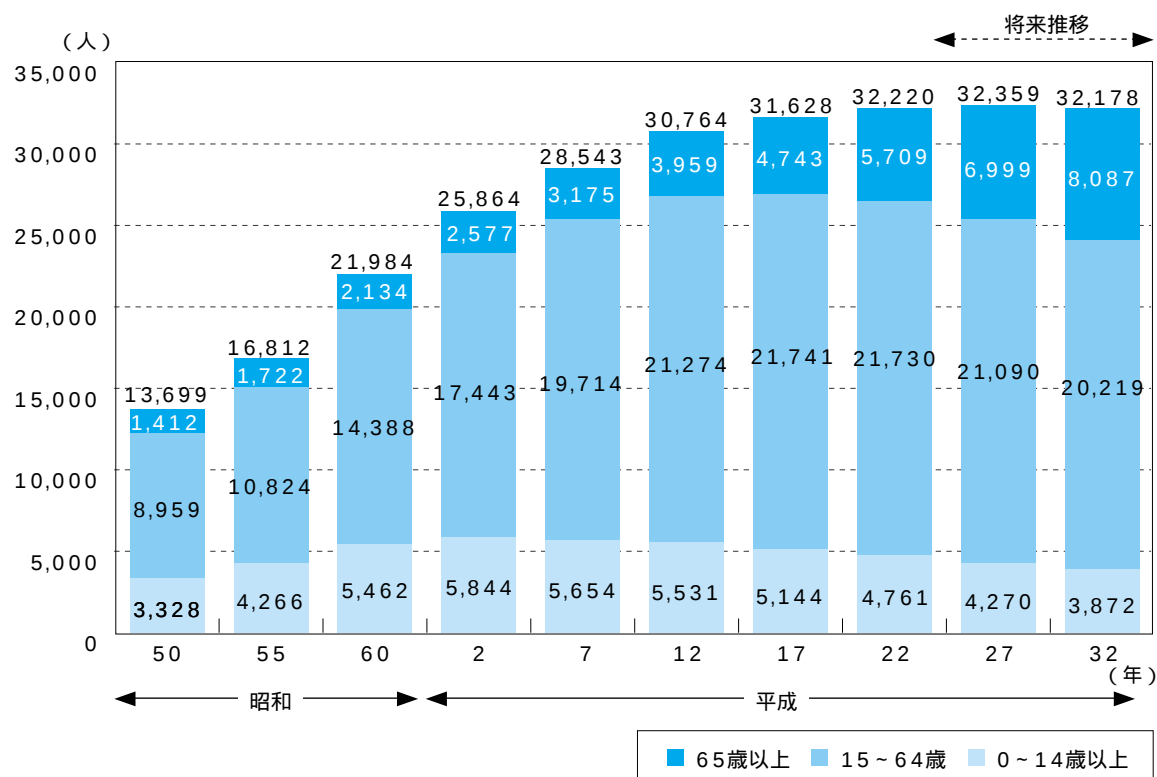
出典：国勢調査

(3)人口将来推計

国勢調査を基に、本市の将来人口を推計したところ、平成27年頃までは緩やかに増加を続けますが、それ以降減少に転じる見込みです。年齢3区分ごとの内訳をみると、年少人口は減少を続け、平成27年には平成17年比で約17%減少する見込みです。

また、生産年齢人口も今後は緩やかに減少していく見通しです。一方、高齢人口は急速に増加し、平成27年には平成17年に比べ約48%増える見込みです(図2-8)。

●図2-8 人口の将来推計



出典：国勢調査を基に推計

6

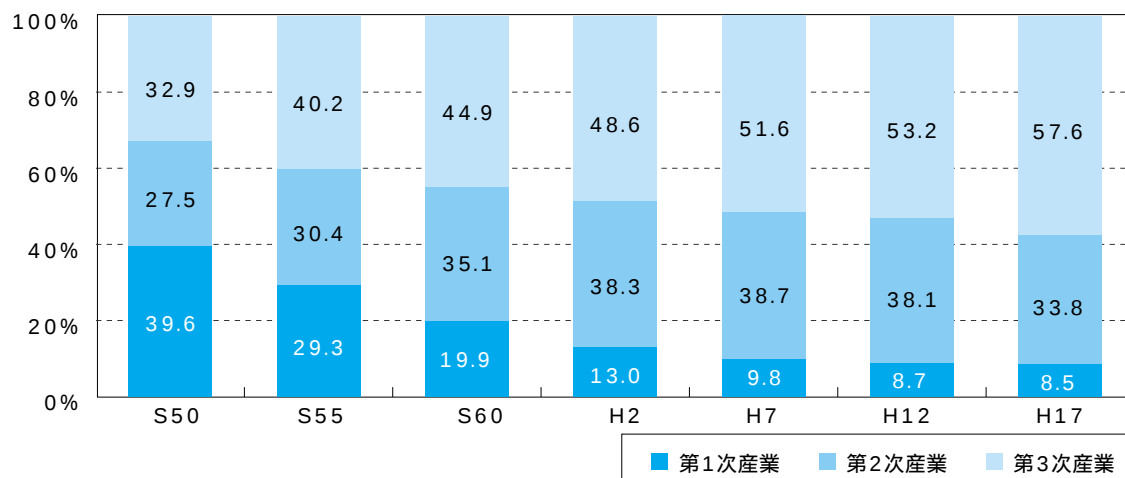
産業

(1) 産業一般

本市の産業別就業人口の構成比の推移は、第3次産業が増加する一方で、第1次産業は減少傾向にあり、第2次産業は平成7年まで増加していたものの、近年は減少に転じています。また、昭和50年には第1次産業の割合が40%近くありましたが、年々低下して平成7年に10%を切り、その代わり第3次産業が全体の半数を超えるようになりました。(図2-9)

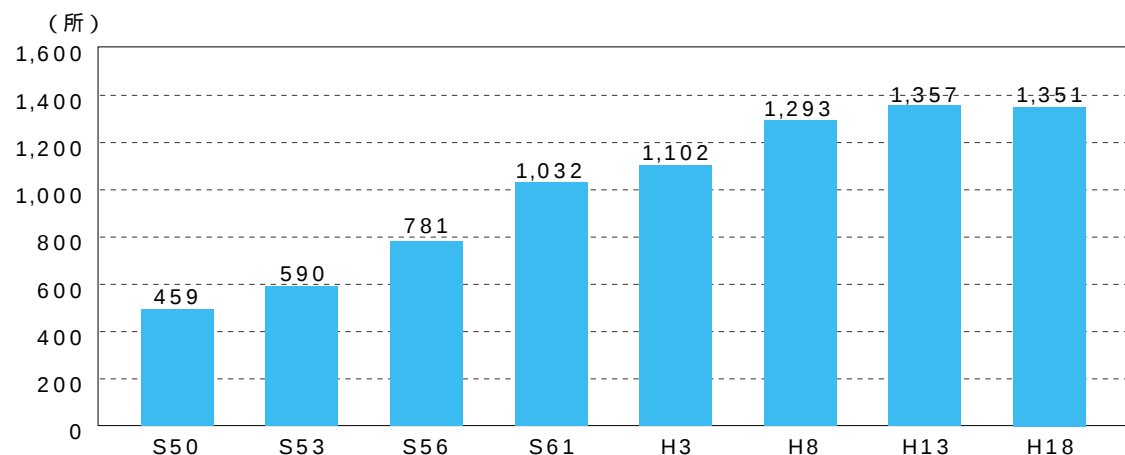
事業所の立地状況をみると、平成13年まで増加傾向にありましたが、平成18年には若干減少しています。(図2-10)

● 図2-9 産業別就業人口の構成比の推移



出典：国勢調査

● 図2-10 事業所総数の推移



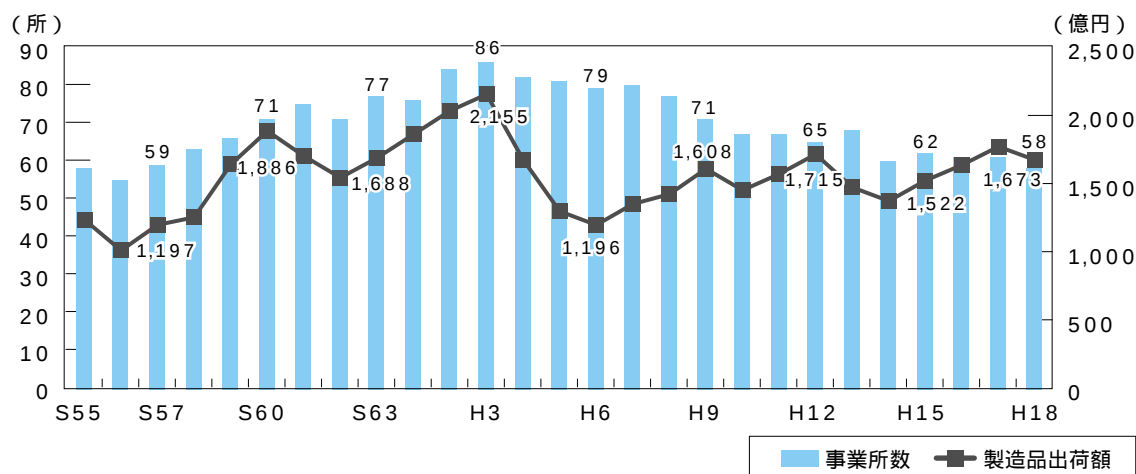
出典：山梨県事業所企業統計調査報告

(2) 商工業

製造業では、事業所数は平成3年をピークに減少傾向にあり、製造品出荷額等¹は平成6年に最も少なくなっていますが、その後は多少持ち直しつつあります。(図2-11)

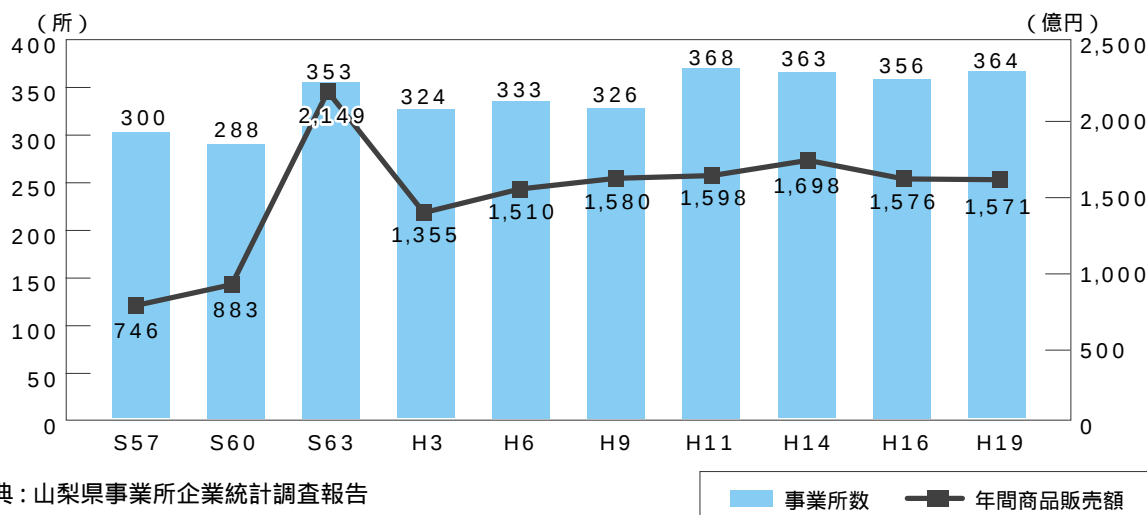
また、商業関係の事業所数は、昭和63年から伸び悩みの状況にあります。一方、年間商品販売額は昭和63年に大幅に増え、その後減少して横ばいの状態が続いています。これは昭和62年に甲府リバーサイドタウンに大型ショッピングセンターができたためと考えられます。(図2-12)

● 図2-11 製造品出荷額等の推移



出典：国勢調査

● 図2-12 年間商品販売額等の推移



出典：山梨県事業所企業統計調査報告

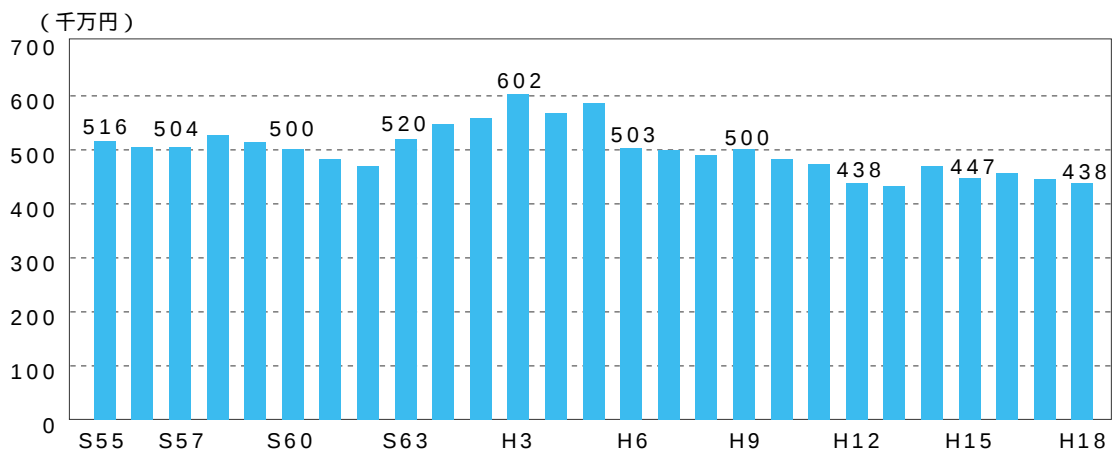
1 1年間の製造品出荷額、加工賃収入額、修理料収入額及びその他（冷蔵保管料、新聞広告料、製造工程から出たくず、廃物等）の収入額の合計を言います。

(3) 農業

農業では、農業産出額²が平成3年をピークにやや減少傾向が見られましたが、ここ数年は横ばいの状態で推移しています。(図2-13) 農業産出額を種別にみると、野菜(49.8%)の割合が高く、次いで、畜産(17.8%)、花き(13.5%)、果実(9.6%)の順となっています。(図2-14)

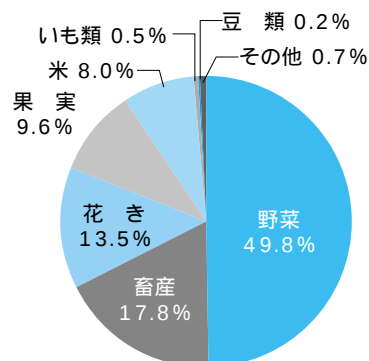
また、耕作放棄地の面積は平成7年にかけて増加傾向にありましたが、平成7年以降は横ばいの状態で76haにとどまっています。しかし、経営耕地面積の減少に伴い、耕作放棄率は上昇しています。(図2-15)

● 図2-13 農業産出額の推移



出典：農林水産省生産農業所得統計

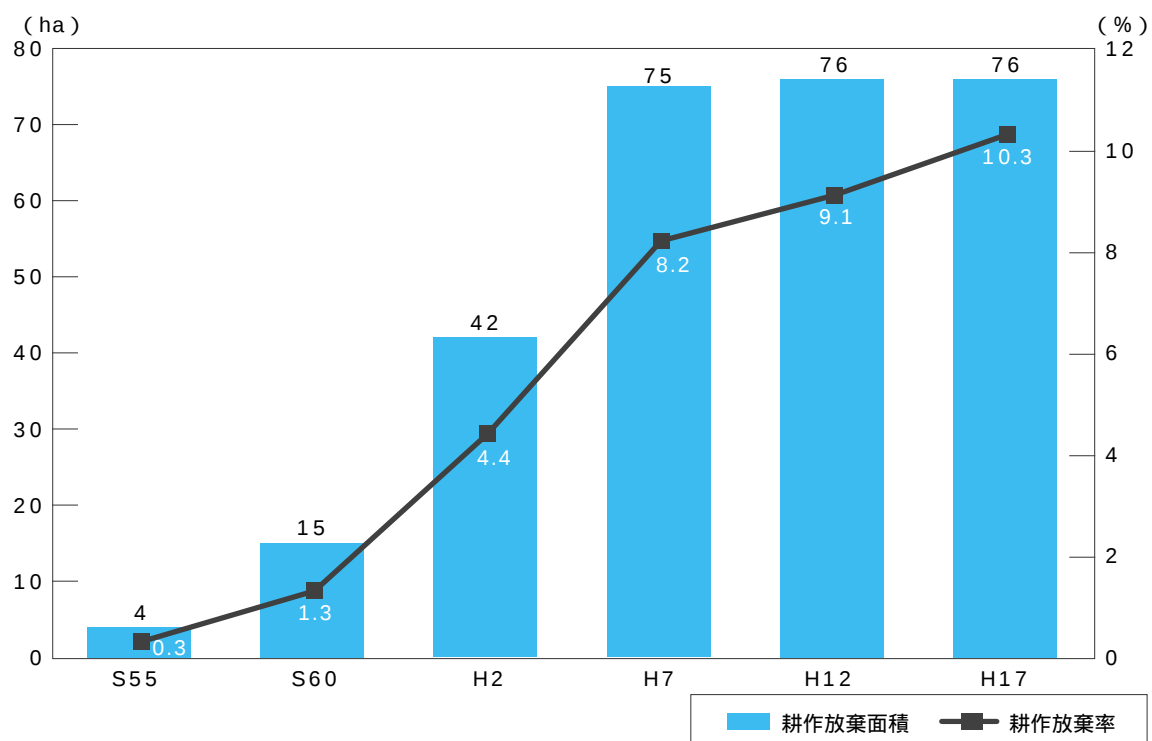
● 図2-14 農業産出額の種別割合



平成18年農林水産省生産農業所得統計

² 農家の人が稲作、野菜栽培、養蚕、畜産などの農業生産によって得られた農畜産物と、その農畜産物を原料として作られた加工農産物を販売して得た利益額のことを言います。

● 図2-15 耕作放棄地面積等の推移



出典：農林業センサス

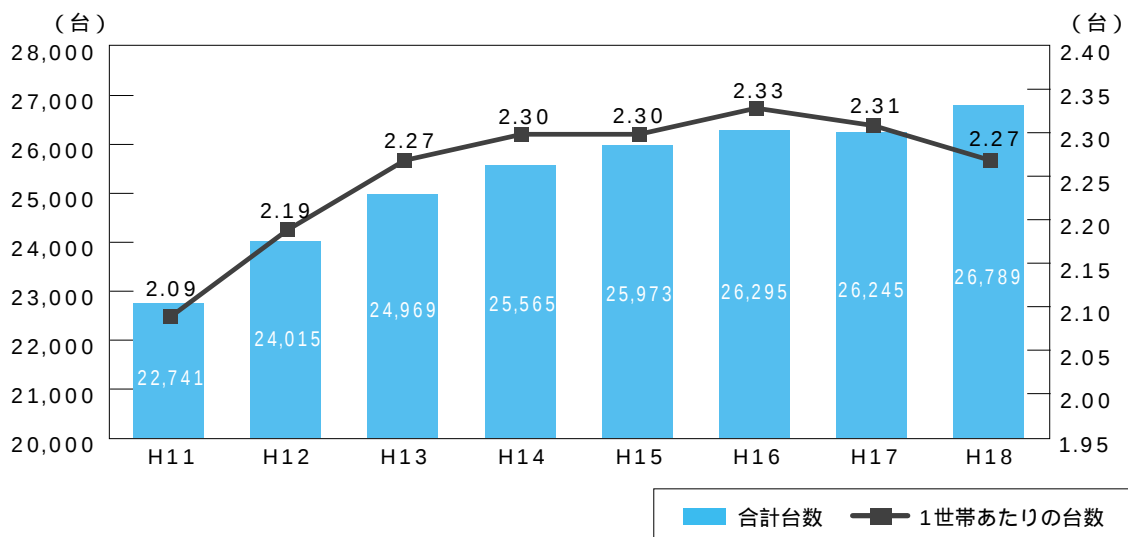
{ 耕作放棄率 = 耕作放棄面積 ÷ (経営耕地面積 + 耕作放棄面積) }

7

自動車登録台数

自動車の登録台数は、平成17年には若干減少していますが、それ以外は増加傾向にあります。また、一世帯当たりの保有台数は、平成16年を境に減少していますが、これは世帯数の増加によるものと考えられます。(図2-16)

● 図2-16 自動車登録台数の推移(二輪車は除く)



出典：県勢ダイジェスト(関東運輸局山梨運輸支局・山梨県軽自動車協会データより)

● 表2-4 自動車登録台数の推移(二輪車は除く)

	乗用車	軽自動車	合計台数	1世帯あたりの台数
H11	15,901	6,840	22,741	2.09
H12	16,597	7,418	24,015	2.19
H13	16,856	8,113	24,969	2.27
H14	17,060	85,05	25,565	2.30
H15	17,175	8,798	25,907	2.30
H16	17,176	9,119	26,295	2.33
H17	17,187	9,058	26,245	2.31
H18	17,241	9,548	26,789	2.27

出典：県勢ダイジェスト(関東運輸局山梨運輸支局・山梨県軽自動車協会データより)

8 市内の主な公共施設について

市内の主な公共施設には次のものがあります。

●行政施設

中央市役所(田富庁舎、玉穂庁舎、豊富庁舎) 玉穂総合会館、田富総合会館、豊富郷土資料館、田富図書館、玉穂生涯学習館

●商業施設

道の駅とよとみ、農産物直売所 た・から

●小中学校

三村小学校、玉穂南小学校、田富小学校、田富北小学校、田富南小学校、豊富小学校、玉穂中学校、田富中学校

●保育園

玉穂保育園、田富第一保育園、田富第二保育園、田富第三保育園、田富北保育園、豊富保育園

●児童館

玉穂中央児童館、玉穂北部児童館、玉穂西部児童館、田富中央児童館、田富わんぱく児童館、田富ひばり児童館、田富杉の子児童館、田富ひまわり児童館、田富つくし児童館、田富すみれ児童館、豊富児童館

●保健施設

玉穂勤労健康管理センター、田富健康管理センター、田富保健センター、田富福祉センター、田富福祉公園コミュニティーセンター、豊富保健センター、豊富保健福祉センター、豊富デイサービスセンター

●スポーツ施設

玉穂市民体育館、玉穂B & G海洋センター、田富市民体育館、田富市民プール、与一弓道場、浅利テニスコート、農業者トレーニングセンター

●その他

玉穂学校給食共同調理場、(財)シルクの里振興公社、豊富農業者研修センター、田富小・中学校給食室、豊富中央公民館、田富よし原処理センター、豊富クリーンセンター、田富コミュニティ防災センター

● 図2-17 市内の主な公共施設等

